SMFPress Vol. 14 2013 8.23



えるだけ。あとは達人たちが、我々地元民 豊岡教会など、できるかぎりの素材をそろ もなく改築されるヴォーリズ設計の武蔵 としては、新芽のそろった茶畑を吹く風、ま もに、引っ越し前の武蔵豊岡教会で最後の 外からアート散歩の達人たちを迎える側 の見過ごしている面白いものを次々発見し この日は、西洋館の一般公開日であるとと

フェイスブックで紹介してくださった。 発見。翌日には他の資料もいろいろ調べて 礼拝が行われ、運よくヴォーリズ作曲の讃 杉並区立科学館の茨木孝雄さんが、常設展 美歌も聴くことができた。 小の輸出シルクラベルに流星のデザインを 入間市博物館アリットでは、達人の一人

時から気になっていたが、二年前、伊東さん 腹のオーナーの魅力が加わる。 場に集った時の不思議な親近感と興奮。そ 日、Webでつながっていた人たちが、その現 制作し続けており、その様子を随時FBに 月以上、近くの民宿や画廊に泊まり込んで の力を抜いて一緒に訪問することができた。 ながっていたことがFB上で判明、今回、肩 SMFの仲間たちがそれぞれ伊東さんとつ 近寄り難い人になっていた。そのうち 代美術散策》を見に行き、初めてお話しし 東さんのことは、カレー工場を改築された ク(以下FB)が果たした役割は大きい。伊 こに、ここまで画廊を自由に改築させた太っ きくなっていったのは言うまでもない。この 投稿していたのだ。私たちの期待が日々大 この個展開催にいたるまで、伊東さんは2ヶ が小川町の人たちを巻き込んだ《小川町現 、、その強靭さと繊細さに圧倒されて、以後 《伊東孝志展》訪問に、このフェイスブッ



▲建築アトリエ独楽蔵



て|緒に歩く人たちの間でどんな化学反応 はなく、そのものと関わっている人々、そし

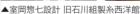
アート散歩は、ものを見て感じるだけで

が起きるか、常にスリリングで魅力は尽き

SY

▲90棟のアメリカンハウスが再構築されたジョンソンタウン





◀参加した建築家 青山恭之さんの 西洋館スケッチ













当日飛び込み



▲飯能わたなべ画廊《伊東孝志展》



和駅東口から10分程歩いた

い光が、このスタジオに び、それを通じた柔らか

記憶の凹凸を静かに照 積み重ねられた時間と

張りの床、鏡張りの壁にバレエレッスン 口のようなドアを開けて中へ入ると、 並んで静かにたたずんでいます。勝手 道を少し進んだ左手に、周囲の家々と 表通りから角を一つ折れて、一方通行の 上がり端の向こうに開けた空間と板 美スタジオ」はあります。 ところに「藤井利子・上原尚

用のバーなどが見え、ここがダンスス

歩踏み込んで一つの作品 者によるコラボレーショ トの野本翔平の5名 音 高橋純一、藤井彩加、電子 はダンサーの江積志織 行われました。この作品 ヲ」という作品の公演が この場所で「サツキバレ よって共同で創作されま フォーマンスアーティス という段階から、もう た。異ジャンルの表現 シタ、ユレルハンモック 2013年5月 楽家の中村隆行、パ 26日

を作ろう、という意識の もとで作られた今作は

ダンスと電子音楽とパフォーマンス 物語もない .ートによって構成され 、約1時間の抽象的な作品 、台詞はなく

板や壁に刻まれた細かい傷や黒ずん

です。スタジオへ足を踏み入れると、床 た偉人の才気がにじむ印象的な写真 ダンダンスにおいて大きな功績を残し たちが写っています。モダンバレエ、モ 井公と、その周りにそれを驚きと敬意 場所の中央でひょっと飛んでいる故・藤

が入り交じった様子で見ている門下生

うなモノクロ写真で、

、稽古場と思しき

くいます。A4くらいの大きさの古そ 左上のあたりに1枚の写真が飾られ タジオなのだと実感します。下駄箱の

長年このスタジオで創作活動をし ば てきた江積、高 、この場所を 、藤井によれ

では珍しいデザインの磨りガラスが並 状が並んでいます。北側の壁面には今 や棚にはたくさんのトロフィーや表彰 には増改築した跡が見られ、四方の壁 だ跡が見えてきます。天井の梁の部分

公演の舞台に とでした。歴史 使ったのは今回 タジオであって が初めてとのこ と実績のあるス 生徒が集 、今はなかな 心しい状

況にあるそう

に追求していけるかが

、今後の課題で

けでなく、作品としての面白さをいか

目立ちま

した。出来事としての意義だ

来に関してはまだまだ未熟な部分が

たと思います。ただ、作品自体の出 今回の公演は、出来事としては成功

識も、今回の公演を企画するに至った しい試みをしていかなければという意 です。そういった現状に対して何か新 理由の一つだったそうです

としても機能させていく、というのは 取り入れ、この場所をより開かれた場 で有意義な試みだったと思います。 これまでこのスタジオと縁のなかった このスタジオの新しい可能性を探る ト 人を参加させることで、外部の視点を 今作における中村、野本のように

津子朗読集『旅につむいだことば』 SMFの第1号出版物ができました



ストイが民話をもとに書いた 話とを朗読したCDを制作しました。

SMFには、美術や文学や建築やダン スなど、いろんな分野の人が集まってい ます。そこで「重本惠津子さんがすてき な声をしているので朗読をお願いして 録音したい とつぶやいたら、作曲家が 「僕が所属する大学のスタジオで録音し てあげようし、デザイナーが「CDとジャ ットをデザインしてあげよう」というこ とになり、すてきなCDができて、SMFの

朗読の重本惠津子さんご自身もマル チな方です。もともとはものを書く文学 の人でしたが、蜷川幸雄さんが立ち上 げた高齢者の劇団「さいたまゴールド・ シアター」の最高齢の女優としても存在 感のある活躍をされています。

秋谷豊と山本太郎は詩人であり、登 山家。立原道造は詩人であり、建築家。

「マルチな才能」というようなテ でCDを構成したわけでないのですが 結果としていかにもSMFらしい、朗読者 や詩人をたどればさらにいろんな輝きを 汲みとれるCDになりました。 (Y W) (文中、「作曲家」は柴山拓郎さん、「大学」は東京電機大学、「テザイナー」は中村降さんです。)

このCDは埼玉県立近代美術館(tel: 048-824-011)のミュージアムショップで制作実費程度(1枚500円)で限定頒布しています。ご来館が難しい方には、通信販売もお受けしています。 ご希望の方はSMF事務局(SMF.info@artplatform.jp)までお問い合わせください。なお9月2日以降の美術館休館中も、通信販売は左記で受け付けます



SMFと北浦和西口銀座商店街が協同 制作した、アート&地域活性型キャラク 。北浦和と犬(ワン)をかけた、愛称は親 やすく、なにやら人気者になる予感が! 絵を描くことが得意で、楽しいことが大 自慢の嗅覚でまちのステキや面白 情報を探して、お伝えするのが任務です これからも「きたうらワン」をよろし













執筆:(S.Y) 山尾聖子/(S.N)野本翔平/(Y.W)渡辺恭伸編集:SMF広報委員会 発行:Saitama Muse Forum 問い合わせ:SMF.info@artplatform.jp